

WEEKLY SIGNAL

平成28年11月18日(金) 1350号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/21(月)	11/22(火)	11/23(水)	11/24(木)	11/25(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	△500	△1,000		△1,000	△2,000
財政他	△33,600	+2,000		+2,000	△5,000
資金需給	不34,100	余1,000		余1,000	不7,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債発行(20年)				
オペ期日	共通担保(全店) △1,400 CP等買入 △500 補完供給 +300				
オペスタート	共通担保(全店) +1,500	国債買入 +11,200 短国買入 +15,000	休日		社債等買入 +1,000
(日本)	日銀の政審議委員がさいたま市内で講演 貿易統計(10月)	日銀営業毎旬報告(20日現在) 日銀の保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入残高			CPI(全国10月、 東京都区部11月) 対外対内証券売買(前週分) 企業向けサービス価格指数(10月) 基調的なインフレ率を 捕捉する為の指標(10月)
(海外)	欧 ドラギ ECB総裁 欧州議会で証言	米 中古住宅販売件数(10月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数 (11月、速報値)	米 耐久財受注(10月) 米 新規失業保険申請件数 (19日終了週) 米 ミシガン大学消費者マインド 指数(11月、確定値) 米 FOMC議事録公表 (11月1,2両日分) 欧 ユーロ圏総合PMI (11月、速報値)	米 休場 独 Ifo景況感指数(11月)	米 株式・債券市場は短縮取引

＜インターバンク市場＞

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.05 ~ 0.001

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初313兆円台から始まり、国債買入・国庫短期証券買入オペ等を主要因に15日に316兆円台まで増加した後、17日に国債発行要因等から313兆円台まで落ち込んだ。週末18日は国債買入オペ等要因を受けて315兆3,100億円まで増加した。無担保コールON物加重平均金利は、△0.053%~△0.045%のレンジで推移した。17日には一部で試し取りの動きが見られ、+0.010%での出会いも散見され、加重平均金利は△0.045%となった。ターム物では新積み期以降のスタートで1W物△0.03%の出会いが見られた。

16日新発10年物国債利回りは一時+0.035%まで上昇し、2月18日以来およそ9カ月ぶりの高水準をつけた。日銀は17日10時10分に固定利回り方式による国債買入オペ(通称:指値オペ)をオファーした(残存期間1年超3年以下、3年超5年以下)。今年9月21日の決定会合で導入が決定されて以降初のオファーであったが、結果は応札ゼロとなった。来週の材料としては、国内は政井日銀審議委員講演(21日)やCPI(25日)、海外ではFOMC議事録(11月1、2両日分)(23日)等が挙げられる。

＜オープン市場＞

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

＜CP＞

今週の入札発行額は約5,100億円で、期落ち額約2,800億円(金融機関・ABCP除く)を大きく上回った。鉄鋼や卸売を中心に、数百億円規模の大型案件が散見された。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。

来週の期落ち額は2,900億円程度となっている。賞与シーズンの発行増が予想される。

＜TDB＞

17日に国庫短期証券3M第647回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2716%(前回債△0.2661%)、平均落札レートは△0.2891%(同△0.2765%)と前回債と比べて利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.285%近辺の地合いとなっている。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週24日に3Mの入札が予定されている。

＜レポ＞

足許GCは週初△0.09%近辺の出合い。国債買入オペがオファーされた18日受渡しでは、△0.09%近辺から始まったが調達ニーズは続かず、一部△0.10%台の出合いも見られた。短国の発行が重なった21日受渡しでは△0.085%まで上昇したが、週末には短国・国債買入オペが合計2兆6200億円オファーされ、再度△0.10%台まで低下し越週した。

SC取引では10年340~343回債のレートが強含む展開となり、週の後半にかけて10年343回債で△0.20%近辺、342回は△0.35%近辺の出合いが見られた。その他2年367・368・369回債、5年124・127・128・129回債、10年323・325・328・329・332・338・340・341・344回債、20年158回債、30年52回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。